

柑橘5月の管理

今月は開花を迎え平成30年度産のスタートの時期となります。また、同時に平成30年度産の収量を決定する重要な時期でもあります。自園の着花状態を見極め、安定生産に繋がるよう適切な着花管理を実施してください。本年の発芽時期は平年より早くなっています。開花予測についても早くなっていますので作業が遅れないようにしましょう。

日向夏、木成り甘夏の収穫は順調に進んでいるでしょうか？収穫終了後には剪定、人工受粉、満開期の防除など多くの作業が待っています。忙しい時期ですが、次年度産のことを考えるとどれも疎かにはできない作業だと思います。作業分散のために早期収穫を実施し、冷風貯蔵庫を有効利用しましょう。冷風の付加価値に加え、開花期の作業による品質の向上で手取り価格も大きく向上するはずです。

柑橘生態

表1 発芽期(伊豆農業研究センター調べ)

年度	発芽期					
	青島温州	川野ナツダイダイ	ヒュウガナツ	太田ポンカン	不知火	はるみ
30	3/28	3/28	3/27	3/29	3/26	3/28
平年	4/7	4/2	4/4	4/4	3/31	4/2
29	4/12	4/6	4/8	4/8	4/7	4/8
28	4/7	3/30	4/2	4/3	3/30	4/1

表2 開花予測(平成30年4月16日現在 伊豆農業研究センター調べ)

過去の1月1日～4月15日の平均気温と開花始期及び本年の1月1日～4月15日の平均気温から、以下の開花始期日を予測。

品 種	予測開花日	平年との差	開花始期		
			平年	H29	H28
青島温州	5/7	5日早い	5/12	5/15	5/5
太田ポンカン	5/4	5日早い	5/9	5/15	5/1
川野ナツダイダイ	5/3	6日早い	5/9	5/9	4/29
ヒュウガナツ	5/7	5日早い	5/12	5/9	5/3
不知火	5/6	4日早い	5/10	5/13	5/2
はるみ	5/8	5日早い	5/13	5/13	5/7

(1)剪定・間縮伐

密植の園地や樹高が高くなりすぎた園地を見かけます。作業性が悪いばかりか、日向夏の受粉が悪くなったり、果実品質が落ちるなどデメリットが多くなります。甘夏・日向夏等の計画的間縮伐と剪定を実施して下さい。間縮伐が済み、樹幅が広がって来たら低樹高化に努めましょう。

今年度産は、各品種とも着花量が多い見込みです。剪定方法により花を減らすこともできます。摘果の作業負担を減らすことにも繋がりますので、確実に剪定を行いましょう。

『甘夏』

開心自然形を基本とし、伸びすぎた側枝や下垂枝は小玉やキズ果の原因となるので除去してください。また、5月になると新梢が伸びているので、切り過ぎないように注意してください。切りすぎるとすぐに枝葉が茂らないため、日焼けの原因になります。また、夏秋梢の多発にも繋がります。

『日向夏』

伊豆農業研究センターの調査によると樹冠内部や下部といった日当たりの悪い部分で生理的ス上がりの発生率が高いことがわかっています。開心自然形を基本に樹冠内部の混み合った枝を間引き、樹冠内部まで光が入るような樹形を心掛けてください。また、枝が混み合っているとミツバチの活動が抑制されます。受粉環境改善のためにも剪定を行ってください。

(2)着花管理

着花管理は今年度産の収量を決定する重要な管理になります。樹ごとに着花状況の応じた適切な管理するようにしてください。温州では、隔年結果防止のため、有葉花摘蕾を実施してください。

①日向夏人工受粉

日向夏の着果率向上のために人工受粉を行いましょう。

- 1、受粉樹(白鳥日向、セミノール、甘夏など)の花のめしべを取り除き、花粉を日向夏の柱頭へつけてください。
- 2、作業性の良い目通りの有葉花に受粉させてください。
- 3、受粉用花1花につき、5花程度を目安に受粉してください。
※ その他、着果率向上のためには、受粉樹の混植、高齢樹の改植、間伐・剪定による受粉環境の改善、摘果や根作りなど基本管理を徹底し、樹勢の維持を図りましょう。

②着果過多樹の管理

新梢の発生がほとんど無く、花がベッタリついている樹では樹勢低下に繋がり、隔年結果の助長の原因にもなります。このような樹では、できるだけ早く着果負担を軽減し、樹勢回復に努めましょう。

1、花肥の施用

樹勢回復、着果率の向上、新梢の緑化促進を目的に花肥の施用を行いましょう。

I 開花20日前に硫安20～40kg/10a

II 開花期以降に国産尿素500倍等チッソ主体の液肥を10日おきに2～3回葉面散布してください。防除時に混用しても良いです。

2、摘果剤の利用

ターム水溶剤の登録が拡大され中晩柑類でも摘果剤として使用できるようになりました。しかし、散布試験を行ったところ、品種により摘果効果にバラツキがみられました。試験では、はるみについては十分な効果が得られましたが、ポンカンでは落果過多、甘夏では効果が見られませんでした。また、使用例も少ないため、全面散布はせずに樹冠上部または枝別で散布して様子を見るのが良いでしょう。

はるみではターム水溶剤1000倍を満開10～20日後にマシン油150倍を加用して全面散布してください。

温州で摘果剤を使用する場合は、満開後10日～20日後にフィガロン乳剤1000倍を主枝先端3分の1から2分の1の高さまで散布し、樹冠上部全摘果をして下さい。散布後数日間気温が高くなるとき(25℃以上)に行くと効果的です。ただし、樹勢の落ちている樹では散布しないでください。

③着果が少ない樹の管理

新梢が多いことから、花との養分競合が発生し、生理落果が助長されます。着果率の向上を図りましょう。

- 1、芽かき 花周辺の新梢の芽かきを行い、花と葉の養分競合を防ぎましょう。
- 2、かぶさり枝の除去 着花している枝の上にかぶさっている枝を除去して日照条件を改善し、結実促進を図ります。

(3)病虫害防除

近年かいよう病の被害が見られます。例年発生の見られる園、本年の発生が心配される園では必ず散布してください。また、薬剤防除だけではなく防風林の整備、罹病枝の処理等の基本管理が重要です。

日向夏でナリアWDGを散布する場合は、安全使用基準により散布前に収穫を終えるようにしてください。収穫中に灰色カビ・そうか病の防除をする場合は、安全使用基準の収穫前日数が短いフルーツセイバーを使用してください。

表3 5月の防除

時 期	品 種	対象病虫害	薬 剤 名	倍 率	安全使用基準
5月上旬	甘夏・伊予柑・ネーブル・はるみ等	かいよう病	ムッシュボルドー	500	—
			ムッシュボルドー クレフノン	1,000 200	—
満開時	柑橘全般	灰色カビ病・そうか病	ナリアWDG	2,000	温州 30日前～3回 中晩柑類14日前～3回
			フルーツセイバー	2,000	前日～3回
発生時	柑橘全般(苗木等)	アブラムシ・ミカンハモグリガ	アドマイヤーフロアブル	4,000	14日前～3回
			アクタラ顆粒水溶剤	3,000	14日前～3回
	柑橘全般	クワゴマダラヒトリ	オリオン水和剤	1,000	14日前～5回

※農業安全使用基準を厳守し、出荷前に必ず防除履歴を提出しましょう！！